

## 再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：川崎 茂信

<b>事業名</b>	一般国道165号 <small>やまとたかだ</small> 大和高田バイパス	<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b>	国土交通省 近畿地方整備局
<b>起終点</b>	自：奈良県香芝市穴虫 至：奈良県橿原市四条町	<b>延長</b>	14.4km		
<b>事業概要</b>					
<p>一般国道165号は、大阪市北区を起点とし、奈良県大和平野地域の南部を經由して三重県津市に至る主要幹線道路である。</p> <p>大和高田バイパスは、奈良中南部と大阪経済圏の連結強化や関西国際空港へのアクセス向上を図る地域高規格道路南阪奈道路の一部を構成するとともに、一般国道165号香芝市～橿原市間の交通混雑の緩和、交通安全の確保を図ることを目的とした道路である。</p>					
S43年度事業化	S47年度都市計画決定 (S61、H3、H9年度変更)	H47年度用地着手	H48年度工事着手		
<b>全体事業費</b>	930億円	<b>事業進捗率</b>	約89%	<b>供用済延長</b>	12.1km
<b>計画交通量</b>	32,400台/日				
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 1.1 (残事業) 3.0	<b>総費用</b> (残事業)/(事業全体) 90/2,139億円 事業費：77/2,055億円 維持管理費：13/84億円	<b>総便益</b> (残事業)/(事業全体) 271/2,419億円 走行時間短縮便益：241/2,098億円 走行経費減少便益：19/264億円 交通事故減少便益：12/57億円	<b>基準年</b> 平成25年	
<b>感度分析の結果</b>					
<p>【事業全体】 交通量：B/C=0.9～1.4（交通量 ±10%）      【残事業】 交通量：B/C=2.5～3.6（交通量 ±10%）          事業費：B/C=1.1～1.1（事業費 ±10%）                      事業費：B/C=2.8～3.3（事業費 ±10%）          事業期間：B/C=1.1～1.2（事業期間±20%）                      事業期間：B/C=2.9～3.1（事業期間±20%）</p>					
<b>事業の効果等</b>					
<p>①交通の円滑化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大和高田バイパスの整備により、現道165号の交通量が減少し、旅行速度は向上したが、未整備区間に並行する（主）御所香芝線の交通量は大和高田バイパス部分開通前より増加。</li> <li>整備により、（主）御所香芝線の交通量減少・交通の円滑化が期待。</li> </ul> <p>②地域医療の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・香芝市～奈良県立医科大学附属病院高度救命救急センターへの所要時間が短縮（24分→18分）</li> </ul> <p>③特急停車駅へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・橿原市～天王寺駅への所要時間が短縮（69分→48分）</li> </ul> <p>④空港へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・橿原市～関西国際空港への所要時間が短縮（92分→70分）</li> </ul> <p>⑤特定重要港湾へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・橿原市～堺泉北港への所要時間が短縮（74分→52分）</li> </ul> <p>⑥日常生活圏中心都市へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大和高田市～橿原市への所要時間が短縮（18分→17分）</li> </ul> <p>⑦主要観光地へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沿線へのアクセス向上により観光客の増加が見込まれる （藤原宮跡・今井町・橿原神宮他：約398万人/年）</li> </ul> <p>⑧三次医療施設へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・香芝市～奈良県立医科大学附属病院高度救命救急センターへの所要時間が短縮（24分→16分）。</li> </ul>					
<b>関係する地方公共団体等の意見</b>					
<p>地域から頂いた主な意見等： 平成28年12月、葛城市より全線早期供用の要望を受けている。</p> <p>奈良県知事の意見： 大和高田バイパスは、中間区間が未供用であるため、前後の供用区間の交通が並行する御所香芝線に流入し、當麻寺交差点から太田南交差点間では交通量が容量を超過しており、3箇所の交差点を含む区</p>					

間が、平成25年に公表された「地域の主要渋滞箇所」となっています。

この区間の交通渋滞により、沿線市を含む中和地域の医療の要である奈良県立医科大学附属病院への緊急搬送において御所香芝線を通るルート of 速達性が確保できないことなど、地域住民の生活に大きく影響を及ぼしていることから、大和高田バイパスの未供用区間を整備し、御所香芝線の円滑な交通の確保を図ることが必要です。

県としても、平成28年3月に、御所香芝線の太田南交差点において、交差点北側の大和高田バイパスへ流入する左折車線を設置し、この方向の渋滞が緩和されましたが、依然、交差点東側の大和高田バイパスから流入する交通が多く、通勤時間帯に交通渋滞が発生しているため、大和高田バイパスを計画どおり完成させることが必要です。

以上のことから、対応方針（案）のとおり、事業継続が妥当と考えます。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、「一般国道165号大和高田バイパス」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切であり、対応方針(原案)のとおり「事業継続」することが妥当と判断される。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

大和高田バイパス、南阪奈道路の開通後、現道165号の交通量が減少。  
未整備区間に平行する（主）御所香芝線では渋滞が発生。

事業の進捗状況、残事業の内容等

現在までに12.1km開通済み、用地進捗率：約92%、事業進捗率：約89%。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き調査設計を推進するとともに、今年度は幅杭設置に着手する。また、来年度以降に用地取得に入っていくように事業を推進し、早期の開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

事業の実施にあたり、新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図

【位置図】



【概要図】



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。